

◎ 本説明書は「室外機と総合工事仕様」について示したものです。「室内機」については室内機に付属の「据付説明書」をご覧ください。  
◎ 据付される前にこの据付説明書をよくお読みいただき、指示通り据付工事を行ってください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は「**△警告**」、「**△注意**」に区分していますが、誤った据付をした時に死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「**△警告**」の欄にまとめて記載しています。しかし「**△注意**」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。**Ⓢ** 絶対に行わない **Ⓡ** 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
●据付は、販売店又は専門業者に依頼する。  
●自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるけが等の原因になります。  
●据付時やサービス時など、ユニット内の作業を行う場合は電源を切ってから行う。  
●感電の原因になります。  
●小動物へ触付けるとは万一度が漏れても限界温度(0.3kg/m³)を超えない対策が必要で、限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据付けます。  
●万一度、冷媒が漏洩しては限界温度を超えたと誤った事故の原因になります。  
●据付けは重量に十分耐える所に確実に行う。  
●強度が不足している場合は、ユニットの落下、転倒などにより、けがの原因になります。  
●地震などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。  
●据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。  
●ユニット搬入する際、重量に適合したロープをユニット所定位置に掛けて行う。  
●搬入方法に不備があるとユニットが落下し、死亡や重傷の原因となります。  
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
●当社指定部品を使用しないこと、ユニットの落下、水漏れや火災、感電、冷媒漏れ、能力不足、制御不良などの原因になります。  
●空気清浄機、加温器、暖房用電気ヒーターなどの別売品は、必ず当社指定の製品を使用する。  
●また、取付工事は販売店または専門業者に依頼する。自分で工事され、不備があると、水漏れ、感電、火災の原因になります。  
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
●電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。  
●配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する。  
●接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災、感電等の原因になります。  
●電気接続部にはほごりの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、確実に接続する。  
●ほごりの付着、詰まり、がたつきがあると感電、火災の原因になります。  
●配線は、浮き上がらないように整形し、サービスパネルを確実に取付けます。  
●取付けが不完全な場合は発熱、火災や感電の原因になります。  
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。  
●冷媒配管が取付けられずにそのまま圧縮機を運転すると急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。  
●作業中に冷媒が漏れた場合は配管うろう付け等、作業を中断する。冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。  
●配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。  
●既存（R410A用以外）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂、けが等の重大な事故の原因になります。  
●フレアナットは、トルクレンチを使用しダブルスパナで適正トルクで締付ける。  
●フレアナットの締付けすぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒が漏洩します。フレア部の緩み、破損が発生した場合、冷媒が漏洩して火災事故の原因になります。  
●ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。  
●圧縮機を運転したまま操作弁開放状態で冷媒配管をはずすと急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また圧縮機が空気を吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。  
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。  
●冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。  
●据付工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する。  
●冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●冷媒配管工事、気密試験及び真空引きが完了するまでは操作弁（ガス・液側）を開けない。  
●急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。  
●ドレン配管はイオウ系ガス等、有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。  
●室内に有毒ガスが侵入することがあります。また、室内機を保管させ、故障や冷媒漏れの原因になります。  
●エアコンの設置や移動の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気を混入しない。  
●空気を混入すると冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。

●点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保する。  
●スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるけがの原因になります。  
●室外機を屋上あるいは高所に設置する場合は、転落防止のため、通路には柵やハンコ、手すり等を、また室外機の周囲にはフェンス、手すり等を設ける。  
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
●据付に不備があると、異常振動・騒音増大の原因になります。  
●冷媒配管工事終了後は壁系ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認する。  
●万一度、狭い部屋に冷媒が漏洩しては限界温度を超えたと誤った事故の原因になります。  
●冷媒配管の防露断熱工事を行う。  
●防露断熱工事に不備があると、水漏れ、露たれし、腐食等を招く原因になります。  
●漏電遮断器を取付ける。  
●漏電遮断器が取付けられていないと火災や感電の原因になります。  
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように、結露が生じないように保温する。  
●不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

●アース(接地)を確実に行う。  
●アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話や他のアース線に接続しない。アース(接地)が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になります。  
●室外機は、小動物のすみかになるような場所には設置しない。  
●小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発熱、発火の原因になります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。  
●包装用のバンドを持って荷扱いしない。  
●素手で梱包用の木材を扱わない。  
●可燃性ガスの漏れの恐れのある場所や引火物のある所へは設置しない。  
●可燃性ガスの漏れや発生、流入、漏洩の恐れのある場所やカーボン繊維が浮遊する場所では火災の原因になります。  
●動植物に直接ファン吹き出し風が当たる場所には設置しない。  
●吹き出し風による植木等への被害の原因になります。  
●室外機の上に物を置いて運転を行わない。  
●落下物により物が破損したり、ケガの原因となります。  
●室外機の上に乗らない。  
●落下、転倒等によりケガの原因となります。  
●食品・動植物、精密機器・美術品の保管など特殊用途に使用しない。  
●保存物の品質低下などの原因になることがあります。

- 冷媒R410A対応機としての注意点

●R410A以外の冷媒を使用しないでください。R410Aは従来の冷媒（R22、R407C）に比べ圧力が約1.6倍高くなります。R410Aはボンベ上部に桃色の表示があります。

●R410A機は、他冷媒の誤封入防止のため室外機操作弁のチェックジョイント径とユニット内のチェックジョイント径を変更しています。又、耐圧強度を上げるため冷媒配管のフレア加工寸法及びフレアナットの対応寸法を変更しています。従って、施工・サービス時には右表に示すR410A専用ツールを準備してください。

●チャージシリンダは使用しないでください。チャージシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

●冷媒封入は必ず液相で取り出して行ってください。

●室内機はR410A専用機となります。接続可能な室内機はカタログ等で確認してください。（他の室内機を接続すると正常運転できません）
- R410A専用ツール

a グージマニホールド

b チャージボース

c 冷媒充填用電子はかり

d トルクレンチ

e フレアツール

f 出し代調整用銅管ゲージ

g 真空ポンプアダプター

h ガス漏れ検知器

2. 据付場所（お客様の承認を得て据付場所を選んでください。）

2-1. 据付場所の選定

- 空気こもらない所

○他の熱源から熱放射を受けない所

○ドレン水が流れてもよい所

○テレビやラジオの周囲から5m以上離れた場所（電氣的障害を受ける場合は更に規制を受けない場所）

○吸込・吹出口に風の障壁物のない所

○吹出口に強風が当たらない所

○騒音や熱風が隣家に迷惑をかけない所

○積雪で埋まらない所

- お願い

(ア)ショートサーキットの恐れのある場合は風向アダプタを取付けてショートサーキットを防止してください。

(イ)複数台設置する場合は特にショートサーキットが生じないように吸込みスペースを十分確保してください。

(ウ)降雪地では積雪で埋まらないよう架台および防雪フードを設けてください。

(エ)降雪地では集中排水はしないでください。

(オ)可燃性ガスの漏れの恐れのある場所へは設置しないでください。

(カ)ユニットの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。

(キ)次の様な特殊な場所に据付けられる場合は、腐食や故障の原因になりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

・腐食性ガスの発生する所（温泉地等）。

・潮風が当たる所（海浜地区）。

・油煙が立ちこめる所。

・電磁波が発生する機械のある所。
- ご注意

必ず据付スペースを確保ください。ショートサーキットで圧縮機・電装品故障の原因となります。

2-2. 据付スペース（サービススペース）例

サービススペース（メンテナンス、人の通路、風路、現地配管スペース）を十分確保してください。（本図の施工条件にあてはまらない場合は、代理店または弊社にご相談ください。）

通常の工事では工事スペースを考慮しユニットの両サイド(L5とL6)を10mm以上あけてください。リニューアル時等も考慮し0mm（連続設置）も可能です。  
参考：室外機の床面寸法は全シリーズ（335～680）共に1350×720です。

3. ユニットの搬入・据付

△警告 ユニットのロープ掛けを行い、搬入する場合は必ずユニットの重心のずれを考慮ください。ユニットが安定を失って落下する恐れがあります。

3-1. 搬入

- 搬入経路を決めて、梱包のまま据付位置まで搬入ください。
- 吊上げる場合、ユニットを傷つけないように当て布などで保護し2本の布製ロープにて吊上げてください。

○お願い  
(ア)ロープは必ずユニットの固定脚の角穴部を通してください。  
(イ)ユニットとロープの接触面は当板、当布に沿って傷つかないようにしてください。

3-2. 据付時の注意

- (1) アンカーボルト位置

●アンカーボルト（M10）を4個使用して室外機の固定脚を必ず固定してください。

●ボルトの出代は20mmが最適です。
- アンカーボルト位置(●)

1350 (本機寸法)

850

720

85

725

764

594

50

アンカーボルト位置

- (2) 基礎

●振動・騒音が発生しない、基礎強度・水平度を確認して設置ください。

●基礎は上図にありますが斜線部以上の範囲（室外機の固定脚前面以上）の大きさとしてください。

●基礎は上図にありますが適り室外機の横方向（幅1350mmの方向）にしてください。

●地震や突風などで倒れないように強固に据付けてください。
- 通常上図の通り基礎をお願いします。

従来の基礎方向ではNGです。

リニューアル時には中央に補強を必要としない。たわみ防止のため必要です。
- (3) 防振ゴム

●防振ゴムの取付けは室外機の固定脚全面で受ける大きさとしてください。（右図を参照ください。）
- お願い

(ア)ユニット固定脚の下部全面が接地するように防振ゴムを設置ください。

(イ)ユニット固定脚の下部が防振ゴムより出ている一部のみの設置はしないでください。

1. 据付の前に（機種・電源仕様・配管・必要別売品等を確認し正しく行ってください。）

ご注意

- 据付工事を行う前に必ず読んで、本書に従って工事をしてください。
- 室内機の据付については、室内機の据付説明書をご覧ください。
- 配管工事は、別売の分配用部品（分岐管セット、ヘッダーセット）が必要です。カタログ等をご参照ください。
- 漏電遮断器は必ず設置してください。（高調波対応品を選定してください。）
- 吐出管サミスタ、吸入管サミスタ、圧力センサ等を取り外して運転すると圧縮機を焼損することがあります。絶対に避けてください。

付属品

名 称	個 数	使 用 箇 所
配 線	2	静音モード、冷暖強制モードを使用する場合に室外基板上のCNGに挿入してご利用ください。
取扱説明書	1	引き渡しの際、お客様に説明し保管をお願いしてください。

組合せパターン

- 室外機の組合せ/パターンと室内機の接続台数と接続容量は右表に示す通りです。
- 下記室内機と組み合わせで使用することができます。

室内機	リモコン	接続可否
FDCPOP33LXシリーズ室内機	RC-D3(2/0)	可能
FDCPOP22LXシリーズ室内機	RC-D2(3/0)	可能
FDCPOP11LXシリーズ室内機	RC-D1(3/0)	不可

ご注意

室外機は単独で使用する場合でも組合せで使用する場合でも同一ユニットです。但し、容量335のみ単独で使用する場合と組合せで使用する場合で型式が異なりますので機種選定時にご注意ください。（容量335を単独で使用する場合の型式はFDCP3353HLXY、組合せで使用する場合の型式はFDCP3353HLX-Kです。）下記組合せ以外では運転できませんのでご注意ください。（たとえば560と680を組合せ運転することはできません。）

室外機		室内機	
容量	組合せ/パターン	接続台数 (台)	室内ユニット合計接続容量範囲
400	単独	1～23	200～520
450	単独	1～26	225～585
504	単独	1～29	252～656
560	単独	1～33	280～728
615	単独	2～36	307～800
680	単独	2～40	340～884
735	組合せ (335+400)	2～43	367～956
800	組合せ (400+400)	2～47	400～1040
850	組合せ (400+450)	2～50	425～1105
900	組合せ (450+450)	2～53	450～1170
960	組合せ (450+504)	2～56	480～1248
1010	組合せ (504+504)	2～59	505～1313
1065	組合せ (504+560)	2～62	532～1385
1130	組合せ (560+560)	3～66	565～1469
1180	組合せ (560+615)	3～69	590～1534
1235	組合せ (615+615)	3～73	617～1606
1300	組合せ (615+680)	3～76	650～1690
1360	組合せ (680+680)	3～80	680～1768

【別売品】

据付の際には別途冷媒配管の分配用部品が必要です。冷媒配管の分配用部品に関しては、室外側の分岐管セット（型式：DOS）、室外側は分岐管セット（型式：DIS）とヘッダーセット（型式：HEAD）をご用意しています。用途に応じて選定してください。3項の冷媒配管工事の項目を参照のうえ選定してください。不明な点があれば代理店または弊社にご相談ください。冷媒分岐管セットとヘッダーセットは必ずR410A専用品をご使用ください。

4. 冷媒配管工事

4-1. 配管仕様の決定（室内機の仕様と据付場所に合わせ、以下の内容で選定してください。）

- (1) 配管の使用制限

●配管工事は、必ず(1)項の最長、配管総長、第一分岐からの許容配管長、許容高低差(ヘッド差)の使用制限を守り施工してください。

●配管途中にトラップ(㊦) 鳥居(㊧) 配管は油溜まりの原因となりますので回避してください。

●最長（室外機から最も近い室内機まで）……………実長 160m以内（相当長 185m以内）  
（但し、実長が90mを超える場合は配管を変更する必要があります。3)項の(イ)にありま主管選定表を参照し主管サイズを選定してください。）

●配管総長……………1000m以内（室外機容量が400～560）  
……………510m以内（室外機容量が615～1360）

●主管の配管長……………130m以内

●第一分岐からの許容配管長……………90m以内  
但し、最長配管と最短配管との配管長差は40m以内。

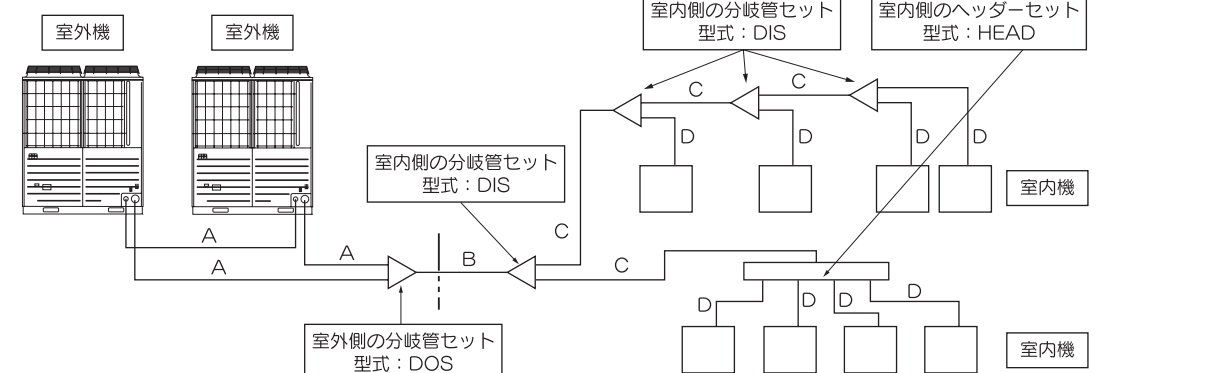
●許容高低差（ヘッド差）  
(ア) 室外機が上位置の場合……………50m以内  
(イ) 室外機が下位置の場合……………40m以内  
(ウ) 系統内の室内機間の高低差……………18m以内  
(エ) 第一分岐と室内機との高低差……………18m以内

●室外機から室外側分岐管までの配管制限（組合せユニット）  
(ア) 高低差……………0.4m以内  
(イ) 室外機から室外側分岐管までの長さ……………5m以内  
(ウ) 均油管の配管長……………10m以内
- (2) 配管材料の選定

●配管の内外面はきれいであり、使用上有毒なイオウ、酸化物、ゴミ、高低差 50m  
切粉油脂、水分（コンタミ）の付着が無いものをご利用ください。実長 160m  
●冷媒配管は次の材料をご使用ください。相当長 185m  
材質：リン脱酸継目無銅管（C1220T-O、1/2H、JIS H3300）  
外径φ19.05以上はC1220T-1/2H、φ15.88以下はC1220T-O  
●肉厚及びサイズ：配管サイズ選定要領に基づき選定ください。  
（本機はR410Aを使用します。φ19.05以上の配管はO材では耐圧が不足するため、必ず1/2H材、最小肉厚以上をご使用ください。）

●配管の分岐は、必ず当社の分岐管セットまたはヘッダーセットをご使用ください。  
●分岐管セットは取付け方向を注意し、付属の据付説明書をよくお読みの上施工してください。  
●操作弁の取扱は4-3（3）操作弁の操作方法をご参照ください。

(3) 配管サイズ選定



(ア) 室外機～室外機側の分岐管：図1のA部  
室外機の接続配管サイズに合わせてください。  
室外機接続配管サイズ仕様表

室外機	室外機出口配管仕様					
	ガス管	接続方法	液管	接続方法	均油管	接続方法
335	φ25.4× t 1.0	ろう付け	φ 12.7× t 0.8	フレア	φ 9.52× t 0.8 ※1	フレア
400						
450						
504						
560						
615						
680						

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用ください。  
※1:均油管は組合せユニットに使用する場合、親機と子機間で接続してください。（単独ユニットとして使用する場合は接続しないでください。）



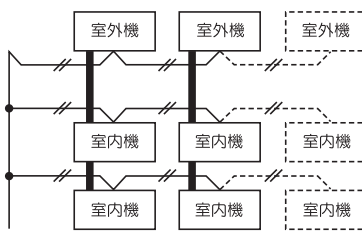








(3) 下図のように信号線を接続する方法も可能です。

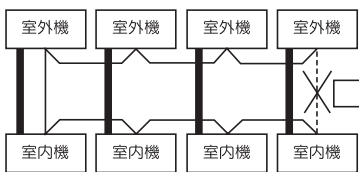


#### リモートコントローラ配線仕様

●リモコン線は0.3mm<sup>2</sup>×2心 (3LXシリーズ室内機)、3心 (2LXシリーズ室内機) が標準です。延長は600mまで可能です。100m以上の場合は、右表に示す配線を使用してください。



重要 ○ループ配線の禁止

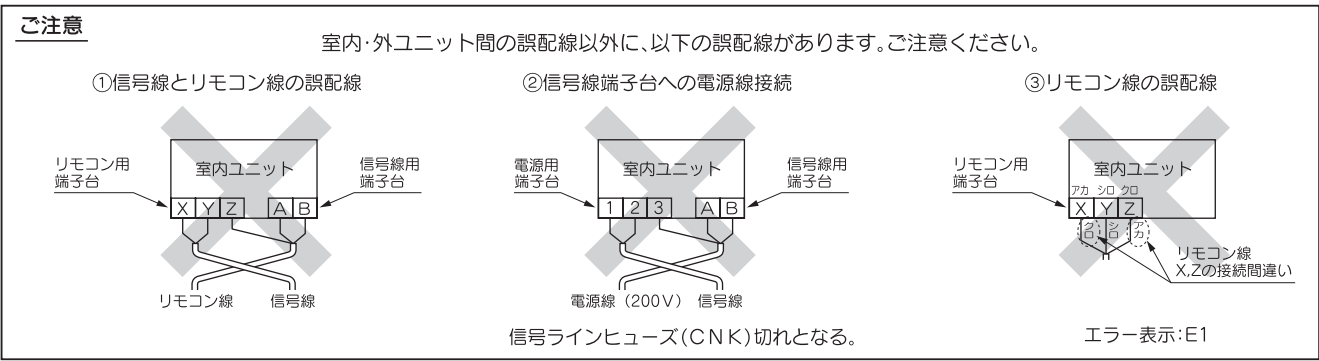


信号配線がループ状となる配線不可 …… 部の配線禁止

●信号端子台への結線は、M3.5用の右図圧着端子を使用してください。



長さ (m)	配線太さ	
	3LXシリーズ室内機	2LXシリーズ室内機
100～200以内	0.5mm <sup>2</sup> ×2心	0.5mm <sup>2</sup> ×3心
～300以内	0.75mm <sup>2</sup> ×2心	0.75mm <sup>2</sup> ×3心
～400以内	1.25mm <sup>2</sup> ×2心	1.25mm <sup>2</sup> ×3心
～600以内	2.0mm <sup>2</sup> ×2心	2.0mm <sup>2</sup> ×3心



## 7. コントローラーの設定

### 7-1. ユニットアドレスの設定

本制御システムでは、複数の空調機の室外機と室内機及びリモコンからなるコントローラを、各コントローラ内のマイコンにより通信制御するものです。アドレスの設定は室外機と室内機の両方とも行ってください。室外→室内の順で電源を入れてください。間隔は1分を目安にしてください。本機では従来の通信方式 (旧SL) と新通信方式 (新SL) の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ6-3の表の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

新SL未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であっても旧SLでの通信を選択してください。

アドレス設定後通信ができるようになったら**室外機7セグで通信方式を確認してください。**

#### ●アドレス設定の種類

アドレス設定方法は下記の方法があります。自動アドレスは従来と手法が異なります。本説明書をよく読んでご使用願います。

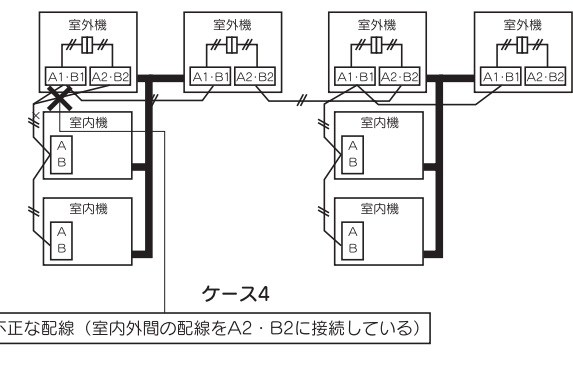
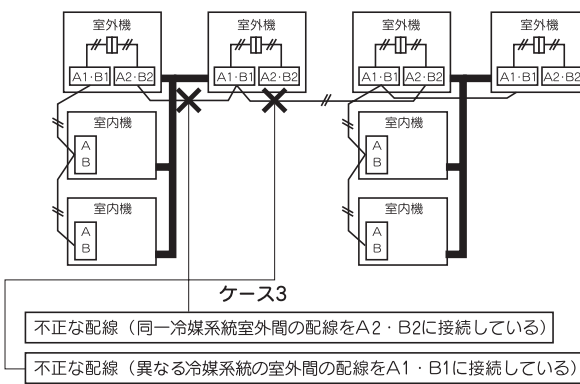
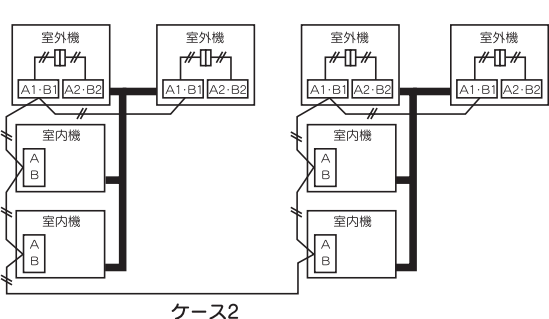
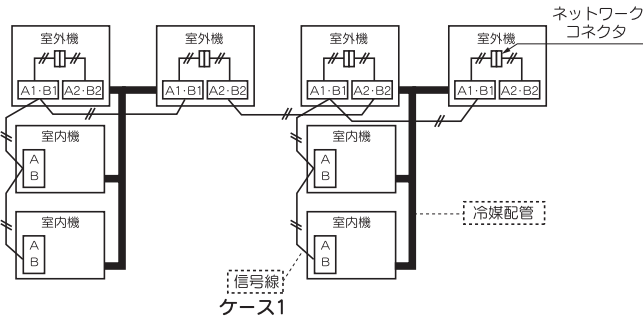
通信方法		新SL		旧SL	
アドレス方法		自動	手動	自動	手動
複数の冷媒系統を信号線で接続する場合 (例えば集中制御を行う場合)	ケース1 複数の冷媒系統を接続する信号線が室外機間で接続されている場合 (ネットワークコネクタを外した際に各冷媒系統が1系統ずつに分離される状態)	OK <sup>※1</sup>	OK	×	OK
	ケース2 複数の冷媒系統を接続する信号線が室内機間で接続されている場合	×	OK	×	OK
冷媒系統が1系統の場合 (信号線が冷媒系統をまたがない場合)		OK	OK	OK	OK

※1 A1・B1に異なる冷媒系統の室外機間信号線を接続しないでください。またA2・B2に同一冷媒系統の室外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。(ケース3)

A2・B2に室内外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。(ケース4)

※2 (ケース2) の場合自動アドレス設定ができません。手動にてアドレス設定を行ってください。

13



#### ●アドレスNo.設定

基板上の設定SW1～4及びSW5-2、室外基板上の設定SW1、2を「アドレス設定方法一覧」の表のように設定してください。

室内基板	SW1、2	室内No. 設定用 (10の位と1の位)
	SW3、4	室外No. 設定用 (10の位と1の位)
	SW5-2	室内No. スイッチ (100位) (OFF: 0、ON: 1)
室外基板	SW1、2	室外No. 設定用 (10の位と1の位)

SW1 (SW3)



10位

SW2 (SW4)



1位

この溝にドライバー (精密ドライバー) を差し込んで矢印を番号に合わせてください。

#### ●アドレス設定方法一覧 [ ]内は旧SL用の数値

	新SL対応機			新SL未対応機		
	室内機アドレス設定 室内No. SW	室外機アドレス設定 室外No. SW	室外機アドレス設定 室外No. SW	室内機アドレス設定 室内No. SW	室外機アドレス設定 室外No. SW	室外機アドレス設定 室外No. SW
手動アドレス	000～127 [47]	00～31 [47]	00～31 [47]	00～47	00～47	00～47
1 冷媒系統自動アドレス	000	49	49	49	49	49
複数冷媒系統自動アドレス (新SLのみ)	000	49	00～31	不可	不可	不可

本表以外の数値に設定しないでください。エラーが出る場合があります。

注: FDOPOO2LXシリーズのネットワークなど旧SLのネットワークに新規に追加する場合は、通信方式は旧SLを選択し、手動アドレス設定してください。FOTP224.280形は室内機1台につき基板が2個ありますので2個の基板それぞれ異なる室内No. SWを設定してください。

●室外No. は室外基板と室内機1台にあり、どの室外機とどの室内機が冷媒配管で結ばれているか示すNo. です。冷媒配管で結ばれた室内・室外機は同一室外No. となるようにしてください。

●室内No. は室内機を確認するためのNo. です。ネットワークの他の室内機と重複しないようにしてください。

以下の手順は特に断りのない場合は通信方式として新SLを選んだ場合の手順です。旧SLを選んだ場合には [ ] 内の数値に読み替えて作業を行ってください。

自動アドレス設定 新SL/旧SL共通 [ ]内は旧SL用の数値

#### ①室外機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。電源投入することで室外アドレスが登録されます。  
**室外No. スイッチを00～31 [旧SLの場合00～47]** の範囲で設定してください。  
ネットワーク上の他の室外No. と重複しないように設定してください。  
**組合せの親機の場合も同様に**、室外No. 用のロータリスイッチを **00～31 [旧SLの場合00～47]** の範囲で設定してください。  
**組合せの子機の場合は**、室外No. 用のロータリスイッチを **組合せの親機と同じ室外No.** に設定し、さらに**子機用のディップスイッチSW4-7をONに設定**してください。(親機と子機の室外No. を同じ設定にしてください。)

#### ②室内機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。電源投入することで室内アドレスが登録されます。  
**室内No. スイッチを000～127 [旧SLの場合00～47]** の範囲で設定してください。  
**室外No. スイッチ**は対応する室外No. を **00～31 [旧SLの場合00～47]** の範囲で設定してください。  
ネットワーク上の他の室内No. と重複しないように設定してください。

冷媒系統	室外機	SW1	SW2	SW4-7	ネットワーク上のアドレス
A	親機	2	2	OFF	22
	子機	2	2	ON	23
B	親機	2	4	OFF	24
	子機	2	4	ON	25
C	親機	3	1	OFF	31
	子機	3	1	ON	00

ご注意  
子機アドレスは親機+1となります。  
親機アドレス設定時には、他系統との重複にご注意ください。運転はできません。(エラー表示 E-31)

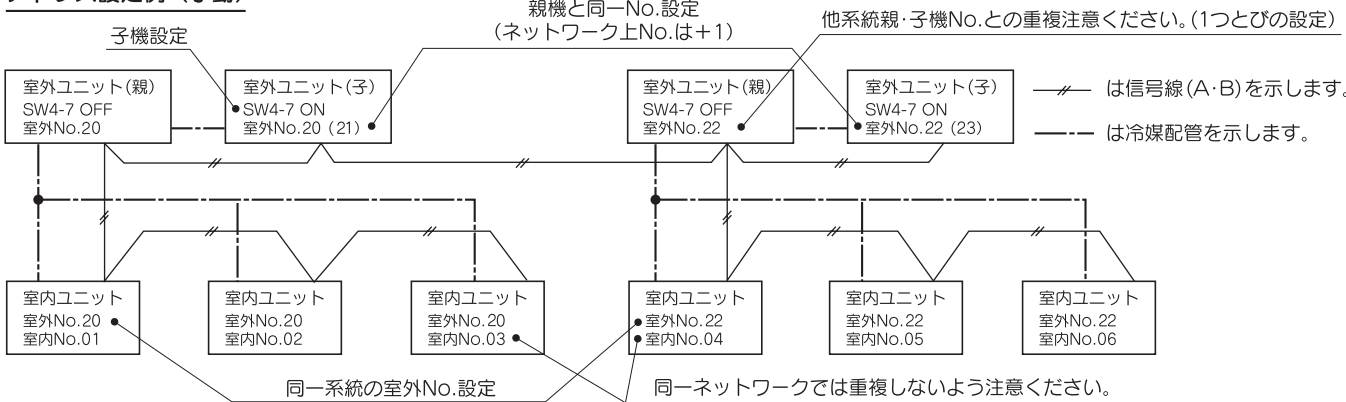
本表は例を示しています。ネットワーク上のアドレスは子機が親機+1となります。

ただし、**子機アドレスが31 [旧SLの場合47] を超える場合は00から順次アドレスが設定**されます。

**連続するアドレスを設定する場合、冷媒系統Bの親機アドレスは、冷媒系統Aの子機のアドレスと重複しないように設定してください。**

③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。旧SLの場合、ネットワーク最大接続室内機台数は48台です。

#### アドレス設定例 (手動)



自動アドレス設定 新SL/旧SL共通 [ ]内は旧SL用の数値

新SLでは従来の冷媒系統が1系統の場合の自動アドレス設定に加え、複数の冷媒系統を信号線で接続する場合でも室内機の自動アドレス設定が可能です。ただし、配線方法等、条件がありますので本説明書をよく読んで実施願います。

(1)冷媒系統が1系統の場合 (新SL/旧SL共通 [ ]内は旧SL用の数値)

#### ①室外機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。  
**室外No. スイッチが出荷時の49**に設定されていることを確認してください。  
・**組合せの親機の場合も同様に**、室外No. 用のロータリスイッチを **出荷時の49** の設定を確認してください。  
・**組合せの子機の場合も同様に**、室外No. 用のロータリスイッチを **出荷時の49** の設定を確認してください。  
さらに**子機用のディップスイッチSW4-7をONに設定**してください。

室外機	SW1	SW2	SW4-7	ネットワーク上のアドレス
親機	4	9	OFF	49
子機	4	9	ON	00

ご注意  
子機未設定の場合は圧縮機故障の原因となります。

#### ②室内機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。  
**室内No. スイッチが出荷時の000 [旧SLの場合49]** に設定されていることを確認してください。  
**室外No. スイッチが出荷時の49**に設定されていることを確認してください。

③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。(2)の手順のように7セグで設定を行う必要はありません。

④室外機 (組合せの場合: 親機) の7セグにて表示される室内機台数と実際に冷媒配管が接続されている室内機の台数が一致するか確認してください。

14

(2)冷媒系統が複数の場合 (新SLのみ可能。旧SLの場合、手動アドレス設定してください)

(冷媒系統を接続する信号線が室外機間で接続されており、通信方式として新SLを選択した場合のみ実施できます。)

操作手順 (各室外機で実施願います)

[STEP1] (電源投入前実施内容)

#### ①室外機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。  
**室外No. スイッチを00～31**の範囲で設定してください。ネットワーク上の他の室外No. と重複しないように設定してください。  
**組合せの親機の場合も同様に**、室外No. 用のロータリスイッチを **00～31の範囲** で設定してください。  
**組合せの子機の場合は**、室外No. 用のロータリスイッチを **組合せの親機と同じ室外No.** に設定し、さらに**子機用のディップスイッチSW4-7をONに設定**してください。(親機と子機の室外No. を同じ設定にしてください。)

#### ②室内機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。  
**室内No. スイッチが出荷時の000**に設定されていることを確認してください。  
**室外No. スイッチが出荷時の49**に設定されていることを確認してください。  
各室外機の**ネットワークコネクタ (白色2P)** を外してください。(接続したまま電源投入されると誤設定となります。)

#### ③自系統を分離

[STEP2] (電源投入と自動アドレス設定)

④室外機室内機電源投入 室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。  
⑤各室外機 (組合せの場合: 親機) の7セグのP31で "1" を選択して確定をし、自動アドレス開始を入力してください。  
⑥開始アドレスと室内機接続台数の入力 各室外機の7セグのP32で室内機の開始アドレスを入力してください。  
⑦開始アドレスを設定すると接続台数入力表示に戻ります。  
各室外機 (組合せの場合: 親機) の7セグで室内機接続台数を入力してください。各室外機ごとの接続台数 (組合せの場合: 同一冷媒系統の接続台数) を入力願います。(7セグのP33で入力できます) 接続した室内機が入力されたら7セグ表示は「AUX」となり点滅します。

[STEP3] (自動アドレス完了確認)

#### ⑧室内機アドレス決定

室内機アドレスが確定したら7セグが「AUE」となり点滅します。このときエラーがあれば「A○○」表示となります。各室外機 (組合せの場合: 親機) の表示を確認願います。  
室内機接続台数により確定するまで**10分程度**かかる場合があります。

[STEP4] (ネットワーク確定設定)

#### ⑨ネットワーク接続

各室外機 (組合せの場合: 親機) ごとに「AUE」表示を確認したら③で外した**ネットワークコネクタを接続**してください。  
⑩ネットワーク極性設定  
**ネットワークコネクタの接続を確認後**、ネットワークの極性設定のため、**任意の室外機1台のみ (組合せの場合: 親機1台のみ)** より7セグのP34で "1" を選択して確定をしてください。

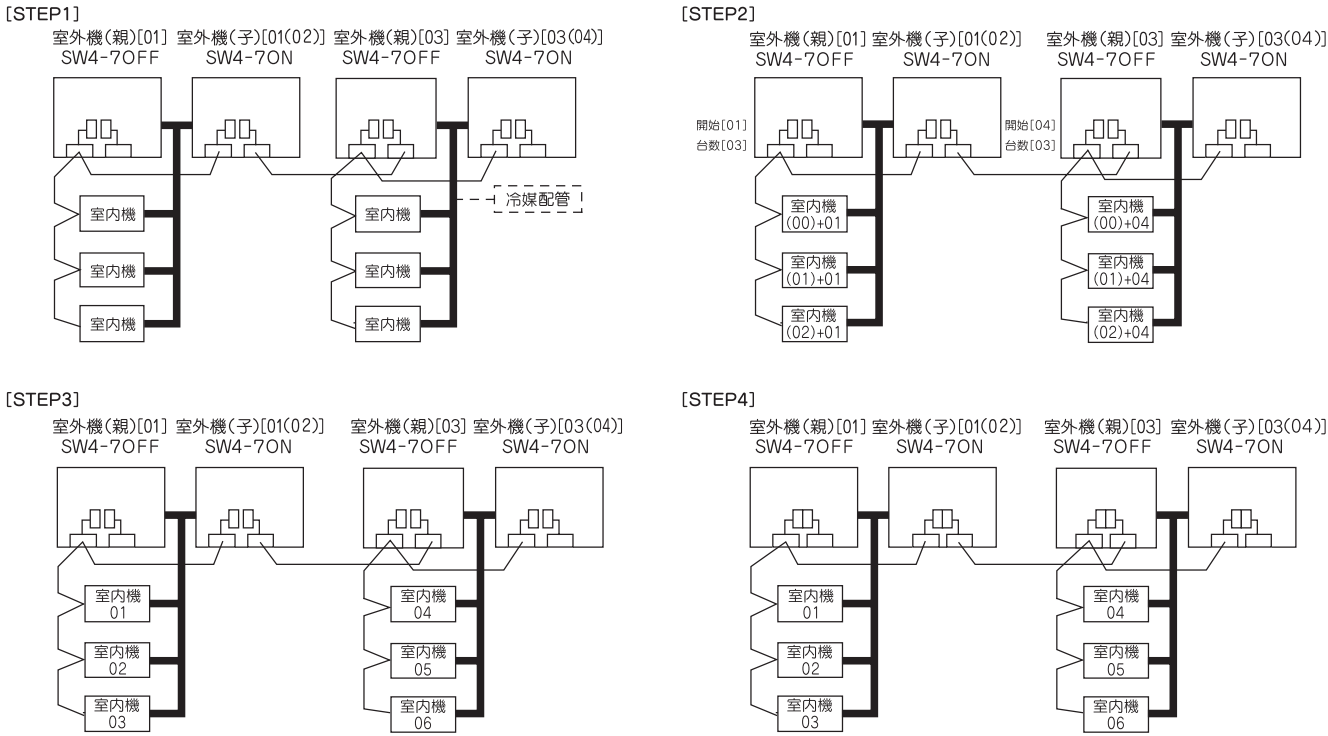
#### ⑪設定完了確認

ネットワークが確定したら各室外機 (組合せの場合: 親機) の7セグに「End」を表示します。「End」表示は7セグ操作もしくは3分経過後消滅します。

	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
内電源	②OFF	④ON	—	—
外電源	①OFF	④ON	—	—
室内機 (室内/室外 No. SW)	②内000 / 外 49 (出荷時)	—	—	—
室外機 (室外 No. SW)	①01:03 (例)	—	—	—
ネットワークコネクタ	③外す	—	—	⑧接続 (各室外機)
自動アドレス開始設定	—	⑥各室外機で開始設定セット	—	—
開始アドレス設定	—	⑥ 外01: [01] (例) 外03: [04] (例)	—	—
接続台数設定	—	⑦ 外01: [03] (例) 外03: [03] (例)	—	—
極性設定	—	—	—	⑩任意室外機から7セグP34セット
7セグ表示 (組合せの場合: 親機)	—	⑦ [AUX] (点滅)	⑧ [AUE] (点滅) エラー時は「A○○」表示	⑪ [End]









8. 試運転・引渡し

8－1. 運転を始める前に

- (1) **電源端子台と設置面を500Vメガーで測って1MΩ以上である**ことを確認してください。
- (2) 電源投入前に信号線端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子台に接続している可能性があります。6-3の抵抗値の目安を参考に配線を確認してください。
- (3) **運転6時間前に必ず電源をONとし、クランクケースヒーターに通電してください。**
- (4) **圧縮機底部が暖かくなっていることを確認してください。**(外気温+5℃以上)
- (5) 室外機の操作弁(ガス・液・均油管(組合せのみ))は必ず全開にしてください。閉のまま運転しますと圧縮機が故障する場合があります。
- (6) **全室内機の電源が入っていることを確認してください。一部の室内機電源が入っていない場合、水漏れになります。**

<b>ご注意</b> 試運転前に操作弁(ガス・液・均油管(組合せのみ))の全開をチェックしてください。閉状態では圧縮機故障の原因になります。
---

8－2. チェック運転

試運転の前にチェック運転を行うことを推奨します。  
(チェック運転を行わなくても試運転及び通常の運転は可能です。)  
チェック運転の詳しい方法については、技術資料をご覧ください。

- 重要**
- ・チェック運転は室内外ユニットアドレス設定終了後かつ冷媒封入後に実施してください。
  - ・冷媒量が適正でない場合は正確なチェックができません。
  - ・システムが異常停止中の場合はチェック運転を行うことができません。
  - ・室内機合計接続容量が室外機容量の80%未満の場合はチェック運転を行うことができません。
  - ・システム通信方式が旧SLの場合は、チェック運転を行うことができません。
  - ・複数の冷媒系統で同時にチェック運転を行わないでください。正確なチェックができません。
  - ・チェック運転は適用温度範囲内(外温：0～43℃、室温：10～32℃)で行ってください。適用温度範囲外では、チェック運転を開始しません。
  - ・外気処理ユニットはチェックができません。(同一冷媒系統の外気処理ユニット以外の室内機についてはチェックできます)
- (1) チェック項目
- チェック運転では下記について確認できます。
- ・操作弁が開いたままになっていないか(操作弁開閉チェック)(但し、組合せの場合正確に判定できるのは親・子機全ての操作弁開のときのみです。)
  - ・室内外ユニット間の冷媒配管・信号線が適正に接続されているか(アンマッチ チェック)
  - ・室内膨張弁が適正に動作するか(膨張弁故障チェック)
- (2) チェック運転方法
- (ア)チェック運転の開始
- ・SW3-2(自動バックアップ運転)、SW3-6(配管洗浄モード)、SW3-7(冷暖強制モード)、SW5-1(試運転)、SW5-2(試運転冷房設定)、SW5-3(ポンプダウン運転)、SW5-6、7、8(能力測定モード)の全てがOFFであることを確認してください。(組合せの場合は親・子機とも)
  - ・次にSW3-5(チェック運転)をOFF→ONにする(組合せの場合は親機のみ)ことでチェック運転を開始します。
  - ・チェック運転を開始してから終了するまでの所要時間は通常15～30分(最長80分)です。
- (イ) チェック運転の終了及び結果表示
- ・チェック運転が終了するとシステムは自動的に停止し、7セグに結果を表示します(組合せの場合は親機のみ)。
  - ・<正常終了>
  - ・7セグに“CHO End”表示が出ます。
  - ・SW3-5をOFFに戻してください。7セグは通常表示に戻ります。
  - ・<異常終了>
  - ・7セグにエラー表示が出ます。
  - ・「ここを点検してください」を参照して不適合部分を修正し、SW3-5をOFFに戻してください。
  - ・その後再度(2)(ア)からチェック運転を行ってください。

チェック運転時の7セグ表示		
コード表示部	データ表示部	表示内容
H1	最大残り時間	チェック運転準備運転中。最大残り時間(分)を表示する。 (組合せの場合は親機のみ表示)
H2	最大残り時間	チェック運転中。最大残り時間(分)を表示する。 (組合せの場合は親機のみ表示)
HO	---	チェック運転中(準備運転中を含む)。 (組合せの子機のみ表示)
CHO	End	チェック運転正常終了。 (組合せの場合は親機のみ表示)

チェック運転終了後の7セグエラー表示(組合せの場合は親機のみ表示)			
コード表示部	データ表示部	表示内容	ここを点検してください
CHL	---	操作弁が開いています。(冷媒回路の一部が閉塞状態。)	・室外機の操作弁が開いたままになっていませんか。 ・低圧センサは正常ですか。(7セグにて検知圧力を確認できます) ・室内膨張弁コイルのコネクタは接続されていますか。 ・室内膨張弁コイルが膨張弁本体から外れていませんか。 ・室内熱交センサは正常ですか。(センサの抜けはありませんか)
CHU	異常室内No.	冷媒配管・信号線アンマッチ。 室内No.表示の室内機に冷媒が循環していません。	・室内外ユニット間の冷媒配管・信号線は適正に接続されていますか。 ・室内膨張弁コイルのコネクタは接続されていますか。 ・室内膨張弁コイルが膨張弁本体から外れていませんか。 ・室内熱交センサは正常ですか。(センサの抜けはありませんか)
CHJ	異常室内No.	室内No.表示の室内機の膨張弁が適正に動作していません。	・室内膨張弁コイルのコネクタは接続されていますか。 ・室内膨張弁コイルが膨張弁本体から外れていませんか。 ・室内熱交センサは正常ですか。(センサの抜けはありませんか)
CHE	---	チェック運転異常終了。	・室内機又は室外機にエラー表示(E??)が出ていませんか。 ・信号線はゆるみなく接続されていますか。 ・チェック運転中にSWの設定を変更していませんか。
CHE	異常室内No.	チェック運転異常終了。 室内No.表示の室内機が異常です。	・室内機又は室外機にエラー表示(E??)が出ていませんか。 ・信号線はゆるみなく接続されていますか。 ・室内機の電源はONになっていますか。

※上記以外にも異常検知によるエラー表示が出ることがあります。その場合は別途技術資料を参照して点検してください。

8－3. 試運転

- (1) 室外機からの試運転
- 室外基板のSW5-1とSW5-2のスイッチにより、外部入力端子のON/OFFにかかわらず室外から試運転ができます。はじめに試運転するモード(冷房／暖房)をお選びください。冷房試運転の場合はSW5-2をONに、暖房試運転の場合はSW5-2をOFFにしてください。(工場出荷時はOFFです。)  
次にSW5-1をOFF→ONにすることで、接続されているすべての室内機を運転します。試運転終了後はSW5-1をOFFとしてください。  
ご注意：試運転中は、室内機のリモコンからの操作(変更)はできません。(集中管理中の表示がです。)
- (2) 室内側からの冷房試運転方法。リモコンを次の手順で操作してください。
- (ア)冷房試運転の開始
- ① **「運転／停止」** ボタンを押して運転します。
  - ② **「運転切替」** ボタンにより「冷房」を選択します。
  - ③ **「試運転」** ボタンを3秒以上押します。「項目◆で選択」→「**「セッ**」で決定」→「冷房試運転▼」と表示が切り換ります。
  - ④ 「冷房試運転▼」の表示で、セットボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
- (イ)冷房試運転解除
- ⑤ **「運転／停止」** ボタンまたは、温度設定 **「△」** **「▽」** ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。「冷房試運転」表示が消灯します。
- ご注意：配管工事者の方へ、または電気工事者の方へ  
試運転終了後、お客様へお引渡しの際に、電装品箱のふた、本体パネルが取り付けであることをもう一度ご確認ください。

8－4. 引き渡し

- 据付、試運転完了後、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書とともにお客様にて保管頂くようにご依頼ください。
- 長時間運転しない場合でも、電源スイッチは切らないようにご指導ください。暖房や冷房運転をしたいときいつでも運転が可能となります。(クランクケースヒーターにより圧縮機底部が暖められているためシーズンインの圧縮機トラブルを防ぐことができます。)

9. サービス時の注意 (R410A対応機)

- (1) 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具類を使い分けてください。
- (2) 冷凍機油への吸湿を避けるために、冷媒回路の開放時間は極力短くしてください。(10分以内としてください)
- (3) その他配管施工、気密試験、真空引き、冷媒封入に関しては「冷媒配管」をご覧ください。
- (4) 故障診断
- (5) 故障診断内容はユニットに貼り付けている配線銘板と技術資料を参照してください。
- (6) 7セグLED表示
- 表示切替スイッチにより、データを表示できます。表示内容はユニットに貼り付けている配線銘板を参照ください。